

2023年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コア研究センター
---------	----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいだけわかりやすく記述してください。

1. 学術研究事業

(1) 国際学術交流企画

① 国際学術カンファレンス「ネイションを越えた情動地理」（2023年7月26日）

東亜大学ジェンダーアフェクト研究所と立命館大学コア研究センターの共同開催、韓国研究財団の後援により、立命館大学衣笠キャンパス充光館で上記の学術企画を開催し、発表、討論を務めた。

② 立命館大学コア研究センター×大邱大学校人文科学研究所 MOU 締結記念コロキウム（2023年10月18日）

勝村誠センター長が大韓民国大邱広域市に赴き、MOU 締結式に出席、上記の学術企画（コロキウム）で発表した。

③ 立命館大学・吉林大学・東国大学 日中韓 3 大学シンポジウム「朝鮮戦争停戦 70 周年及び朝鮮半島情勢の発展動向国際学術会議」（2023年11月22日）

東国大学校北韓学研究所、吉林大学東北アジア研究院と本研究センターの3機関の主催で吉林大学において上記の学術会議を開催し、発表、討論を務めた。

(2) RiCKS 月例研究会

① 第125回 RiCKS 月例研究会（4月24日）

報告者：李裕淑（人間・環境学博士、同志社大学非常勤講師、コア研究センター客員研究員）

テーマ：儒教的祭祀と在日コリアン女性

② 第126回 RiCKS 月例研究会（5月19日）

報告者：クリス・パク（一橋大学国際教育交流センター非常勤講師）

テーマ：在日コリアンと反開発主義～1970年代の下からのアジア社会運動論

③ 第127回 RiCKS 月例研究会（11月10日）

発表者：田中隆一（立命館大学コア研究センター客員研究員、元延辺大学教員）

テーマ：「民生団事件」研究の論点と資料

④ 第128回 RiCKS 月例研究会（1月11日）(ANU-RU Visiting Reseacher's Program との共同開催)

報告者：ファン・ギョンムン（オーストラリア国立大学教授）

テーマ：韓国歴史映画が描く近代女性の時代像

⑤ 第129回 RiCKS 月例研究会（1月26日）

報告者：佐々木亮（立命館大学コア研究センター客員研究員、フリーランス・ジャーナリスト）

テーマ：市民と慰霊—海峽圏からの報告

(3) 朝鮮戦争休戦 70 周年連続セミナー

立命館大学アジア・日本研究推進プログラム、立命館大学東アジア平和協力研究センターとの共催で、以下の6回の研究会を実施した。①ジェフリールイス「北朝鮮の核兵器高度化と拡大抑止」（6月17日）、②田中浩一郎「多極化する世界と核拡散問題」（6月24日）、③下斗米伸夫「多極化する世界とウクライナ戦争」（7月8日）、④小川伸一「多極化する世界と第3世界における核拡散問題」（7月29日）、⑤崔徳孝「朝鮮戦争と日本について考える」（10月20日）

2. 若手人材育成

すべての学術研究事業に若手研究者の積極的な参加を促し発表を奨励するとともに、研究基盤を提供した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	勝村 誠	政策科学部	教授	
運営委員	文 京洙	国際関係学部	非常勤講師	
	庵途 由香	文学部	教授	
	石川 亮太	経営学部	教授	
	金 友子	国際関係学部	准教授	
	宋 基燦	映像学部	教授	
	轟 博志	立命館アジア太平洋大学サスティナビリティ観光学部	教授	
	中戸 祐夫	国際関係学部	教授	
	松坂 裕晃	国際関係学部	准教授	
	総田 芳徳	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部	教授	
	金丸 裕一	経済学部	教授	
	孫 片田 晶	産業社会学部	准教授	
	張 惠英	経営学部	准教授	
	鄭 雅英	経営学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	権 学俊	産業社会学部	教授	
	佐々 充昭	文学部	教授	
	高屋 和子	経済学部	教授	
	中達 啓示	国際関係学部	特任教授	
	松本 克美	法科大学院	教授	
	成田 千尋	衣笠総合研究機構	助教	
	崔 正勲	アジア日本研究所	助教	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生	岡崎 享子	文学研究科	後期課程
		馬場 一輝	国際関係研究科	後期課程
		張 瑛周	国際関係研究科	後期課程
		Oliver Jia	国際関係研究科	後期課程
		Choi yoon hyuk	国際関係研究科	後期課程
		Suh sung hyun	国際関係研究科	後期課程
		KIM SORA	政策科学研究科	後期課程

学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	宋 隠宮	文学部	非常勤講師
	森 類臣	文学部	授業担当講師
	宋 基栄	国際関係学部	授業担当講師
	三上 聡太	文学部	授業担当講師
	張 恵英	言語教育センター	非常勤講師
	塚崎 昌之	文学部	授業担当講師
	橋本 妹里	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	林 茂澤	元立命館大学非常勤講師	—
	徐 潤雅	大谷大学	非常勤講師
	高 賛侑	ライフ映像ワーク	代表
	吉川 絢子	佛教大学歴史学部	非常勤講師
	尹 健次	元立命館大学非常勤講師	—
	金 東僖	高麗大学	研究教授
	波佐場 清	—	—
	沈 熙燦	延世大学 (韓国) 近代韓国研究所	副教授
	戸塚 悦郎	紀尾井町法律事務所	弁護士
	梁 仁實	岩手大学人文社会科学部	准教授
	青柳 純一	金起林記念会	共同代表
	申 東洙	京都市立日吉ヶ丘高等学校	非常勤講師
	川瀬 俊治	—	フリージャーナリスト
	宇都宮 めぐみ	—	—
	李 裕淑	同志社大学	非常勤講師
	坂本 悠一	—	—
	関 スラ	大阪外国語専門学校	非常勤研究員
	高 恩美	韓国研究財団	学術研究教授
	生駒 智一	立命館大学	非常勤講師
	徐 勝	又石大学校	碩座教授
	金 泰勲	阪南大学	非常勤講師
	金 東僖	高麗大学民族文化研究院	研究教授
	曹 昇美	韓国放送通信大学大学院	チュータ
	生駒 智一	—	—
宋 基栄	立命館大学	授業担当講師(朝鮮語)	
塚崎 昌之	—	—	
橋本 妹里	—	—	

	三上 聡太	—	—
	森 類臣	摂南大学国際学部国際学科	特任准教授
	崔 瓊元	—	弁護士
	高野 昭雄	大阪大谷大学 教育学部 教育学科	教授
	SONG EUNYOUNG	—	—
	坂本 知壽子	延世大学校 社会発展研究所 大阪市立大学 都市・研究プラザ	専門研究員 特別研究員
	松本 智也	立命館大学文学部	授業担当講師
	文 聖姫	週刊金曜日	編集長
	佐々木 亮		編集者・ライター・リサーチャー
	植村 隆	週刊金曜日	発行人兼社長
	尹 仁魯	韓国研究財団	学術研究教授
	洪 ジョンウン	大阪公立大学人権問題研究センター	特任助教
	全 ウンフィ	大阪公立大学文学研究科都市文化研究センター	研究員
	Park Chris Hyunkyu	一橋大学	非常勤講師
	白 凜	立命館大学	非常勤講師
	吳 昌炫	国立木浦大学	助教授
	岡崎 享子	元立命館大学博士課程	
	田中 隆一	北洋大学留学生別科京都校	専任講師
	崔 碩烈		
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
センター構成員 計 82 名 (うち学内の若手研究者 計 7 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	石川亮太	アジア経済史(上)	共著	2024年1月	名古屋大学出版会	古田和子・太田淳(編)	朝鮮関係部分
2	松本智也	〈文事〉をめぐる日朝関係史——近世後期の通信使外交と対馬藩	単著	2023年7月	春風社		
3	尹健次	生と死 ある「在日」の断想	単著	2023年4月	クレイン		
4	戸塚悦朗	外国人のヒューマンライツ：コリアンワールド創刊23周年	単著	2023年3月	日本評論社サービスセンター 日本評論社		pp. 1-176

		年記念出版						
5	沈熙燦	관습조사(2): 일제의 조선 관습조사와 식민지 법제 추진(慣習調査(2)——日帝の朝鮮慣習調査と植民地法制の推進)	共著(翻訳)	2023年4月	東北亜歴史財団(ソウル)	왕현중, 방광석		
6	沈熙燦	포스트 포스트콜로니얼리즘(ポスト・ポストコロニアリズム)	共著	2023年5月	漢陽大学日本学国際比較研究所(ソウル)	박규대 他	pp. 67-85	
7	沈熙燦	동아시아 근대의 형성과 역사학(3): 동아시아 냉전과 역사학(東アジア近代の形成と歴史学(3)——東アジアにおける冷戦と歴史学)	共著	2024年1月	東北亜歴史財団(ソウル)	오병수 他	pp. 78-97	
8	沈熙燦	조선연구문헌지(중)(朝鮮研究文獻誌(中))	共著(翻訳)	2024年2月	召明出版(ソウル)	류애림 他		
9	沈熙燦	〈学知史〉から近現代を問い直す	共著	2024年3月	有志舎	田中聡 他	pp. 63-82	
10	川瀬俊治	「在日朝鮮人と衡平社」	共著	2023年4月	解放出版社 『植民地朝鮮と衡平運動：朝鮮被差別民のたたかい』所収	水野直樹編	pp. 1-10	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	金丸裕一	近江八幡を訪問した民国クリスチャンをめぐって	単著	2023年6月	『キリスト教文化』、第21号		pp. 200-213	有
2	金丸裕一	『湖畔の声』に収録された中国関係記事目録(稿)―戦前・戦中編―	単著	2023年11月	『立命館経済学』、第72巻第3号		pp. 68-82	無
3	金丸裕一	棟方文雄の台湾観について―1978年の訪問記を読む	単著	2023年12月	『キリスト教文化』、第22号		pp. 193-206	有
4	金丸裕一	彦根高商資料群との出会い	単著	2024年1月	『彦根論叢』(滋賀大学経済学会)第438号		pp. 18	無
5	金丸裕一	『湖畔の声』に掲載された賀川豊彦関係記事目録	単著	2024年3月	『雲の柱』(賀川豊彦記念松沢資料館)第38号		pp. 54-65	無
6	轟 博志	時空間メディアとしての鉄道駅名に対する一考察	共著	2023年12月	『畿甸文化研究』44巻2号	Kim Somin	pp. 29-45	有
7	轟 博志	山経表の系譜についての一考察	単著	2023年10月	『政策科学』30巻3号		pp. 21-231	無
8	文京洙	在日メディアと論争―在日論の水脈をたどる	単著	202312月	『抗路』11号		pp. 38-47	無
9	鄭雅英	中国朝鮮族の1960年代：文化大革命へのプロセスと少数民族の試練	単著	2023年4月	『經濟學雜誌』(大阪公立大学)巻123		pp. 81-102	無
10	勝村誠	キムスア「韓国オンライン文化とヘイトスピーチの問題」	単訳	2024年3月	『コリア研究』12号		pp. 31-42.	無
11	石川亮太	ハンゲル電算写植機の第1号機	単著	2024年2月	『民具ジャーナル』56(11)		pp. 1-7	無
12	石川亮太	ある在日韓国人の足跡を追って：高仁鳳さんと家族の戦後	単著	2023年12月	『近現代東北アジア地域史研究会 News Letter』35		pp. 31-40	無
13	金友子	「難民の土地」から「土地のなかの難民」へ——『パレスチナとは何か』に見る	単訳	2023年11月	『思想』1196号	申知暎著		無

		非／人間存在と入植 植民地主義批判						
14	金友子	ワークショップ講演 録「日本におけるレ イズムとヘイトス ピーチ：京都からの 声」	共著	2024年3月	『 코리아研究』12号	郭辰雄、中村一 成、金明秀、黄盛 彬	pp. 1-2	無
15	金友子	解題「移動の経験— アートを通してジェ ンダーと人種のア イデンティティをク ィアする」	その他	2023年12 月	『抗路』第11号	Kimura byol lemoine (翻訳・解 題=金友子)	pp. 178-185	無
16	KIM Wooja	Introduction to the Special Issue: Pandemic, Fear, and Hate	Single	2023/12	Asia-Japan Research Institute Ritsumeikan University , “Asia-Japan Research Academic Bulletin” Vol.4		pp. 1-2	無
17	中戸 祐 夫	北朝鮮「核ドクトリ ン」の形成とその影 響—ネオクラシカル ・リアリズムの視 点から	単著	2023.11.30	『現代韓国朝鮮研究』23		pp. 1-14	有
18	総田芳憲	기시다 정권의 안보정책 : 특징, 요인, 문제점	単著	2024年1月	조선대학교동북아시아연구소, 동북아워치, 제 30 호		p. 3	無
19	宋基燦	재일디아스포라와 글로벌리즘 5 <교육> (在日ディア スポラとグローカリ ズム5<教育>)	共著	2023年12 月	『 보고사 』 (東国大学 日本学研究所)	정진성, 김인덕 他	pp. 365-513	
20	尹健次	「在日」を考える— 「宗教的なもの」と 関わって	単著	2023年12 月	『抗路』第11号		pp. 204-215	無
21	金泰勳	日本と韓国における パブリックアートの 時代的变化とその特 徴—1950年代から 2010年代を対象に—	単著	2023年12 月	『芸術学論集』4巻		pp. 59-68	有
22	金泰勳	都市再生における 「社会に関与するア ート」の可能性につ いての一考察	単著	2024年3月	『阪南論集』(阪南大学学会)59 巻、2号		pp. 1-15	有
23	戸塚悦朗	韓半島植民地支配の 不法性(その1) : 2018年韓国大法院判 決と2023年日韓首脳 会談	単著	2023年6月	『龍谷法学56巻』1号		pp. 1-55	無
24	沈熙燦	다시 「근대사학사의 필요에 대해」를 묻다: 메이지유신 전후 일본의 고중학과 계몽사학(再 び 「近代史学史の必要 について」を問う —明治維新时期にお ける日本の考証学と 啓蒙史学)	単著	2024年1月	『日本文化研究』(東アジア日本 学会)89号 (ソウル)		pp. 85-107	有
25	川瀬俊治	「韓国の反原発運動 から脱原発運動へ— 悲報自治制度実施、 住民投票から公論化 委員会へ」	単著	2024年3月	『 코리아研究』、第12号		pp. 43-55	有

26	川瀬俊治	「在日コリアン美術家の光芒—高麗美術家を中心にして」	共著	2024年8月	「関西地域を中心とした在日美術ディアスポラ美術」、河正雄美術館	白凜	pp. 1-18	無
27	川瀬俊治	「東北アジアの非核化と脱原発へ—何が障害か、何が課題なのか」	単著	2024年3月	『科学的社会主義』		pp. 1-16	無
28	川瀬俊治	「北東アジアの非核地帯化と脱原発へ—ノーニュースクアジアフォーラムを取材して」	単著	2024年1月	『部落解放』		pp. 1-10	無
29	川瀬俊治	「先住民族を認定した琉球遺骨返還訴訟控訴審判決—再埋葬を迎えるための闘いが始まった」	単著	2024年3月	『部落解放』		pp. 1-10	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	金丸裕一	賀川豊彦「秘話」形成過程の一考察—1970年代をひもとく	2023年9月8日	第35回賀川豊彦学会大会、関西学院大学	
2	金丸裕一	賀川豊彦眼中的中国新思潮	2023年11月5日	基督教與中國近代新文化運動國際學術討論會、福岡女學院大學	
3	金丸裕一	清水安三の若き日々—中国伝道にいたる道	2023年12月16日	アジアキリスト教交流史研究会大会、明治学院大学	
4	轟 博志	自然に向けた人文的まなざし：日本の富士山の事例	2023年11月	済州学会 第57回国際学術大会	
5	轟 博志	The Character of Private Railways in Korea: 1899-1945	2023年10月	21 st Annual Conference of the International Association for the History of Transport, Traffic and Mobility	
6	轟 博志	山経表の系譜関係に関する再検討	2023年6月	大韓地理学会年次学術大会	
7	轟 博志	(書評) 福本拓『大阪のエスニック・バイタリティ—近現代・在日朝鮮人の社会地理』	2023年4月	朝鮮史研究会関西西部会4月例会	
8	轟 博志	自然に向けた人文的まなざし：日本の富士山の事例	2023年11月	済州学会 第57回国際学術大会	
9	張惠英	Depiction Anti-Japanese-ness: How “Anarchist from Colony” drew conflicting reactions from South Korean and Japanese audiences	2023年8月	ヨーロッパ日本研究協会第17回国際会議、ヘント(ベルギー)	
10	張惠英	韓国映画と「反日」：『金子文子と朴烈』を題材に	2024年2月	K-Gender 研究会、オンライン	
11	松坂裕晃	板垣竜太『北に渡った言語学者：金壽卿 1918-2000』(人文書院、2021年)書評	2024年2月	同志社大学人文科学研究第9部門研究会/科研費(20H01330)研究会	
12	文京洙	John R. Eperjesi: 米国防務主義の見えざる手—済州四・三の世界化をめぐる	2023年5月31日	2023JRUFORUM 4・3SESSION (Making the Solution of Jeju4・3 a Global Model) 済州特別自治道主催、韓国済州道	
13	文京洙	在日コリアン社会の構造変化とその含意	2023年5月	韓国日本近代学会第46回国際学術大会、慶北大学校(韓国大邱市)	

14	宋基燦	Chosun School and Transnational Subject	2023年10月	The UQKSC International Conference on Korean Studies : Culture, Education, Textbooks, Identity, Tourism and History The University of Queensland Brisbane オーストラリア	
15	KASEDA Yoshinori	Japan's Reluctance to Support the Declaration to End the Korean War	2023年5月	2022-23 Inha CIS K-Academic, 6th Colloquium, Inha University, Incheon, ROK	
16	総田芳憲	北東アジア平和構築に対する日本の立場	2023年9月	第2回アジア平和と歴史研究所・九州韓国研究者フォーラム学術大会、ソウル, 大韓民国	
17	総田芳憲	岸田政権の安全保障政策	2023年11月	2023年度「東北アジア平和」国際学術交流シンポジウム、下関	
18	KASEDA Yoshinori	North Korea's Role in the Transformation of Japan's Pacifism	2024年3月	The 12th Monthly Presentation of the Research on the Structure of the Long Cold War, Gwangju Institute of Science and Technology, Gwangju, ROK	
19	勝村 誠	日本から見た安重根義士研究—史料の発見と研究動向を中心に	2023年10月	第8回安重根研究所学術大会「安重根義士と宗教」、大邱カトリック大学校	이권호, 원재연, 지영임
20	勝村 誠	日本の学界における安重根研究の課題	2023年11月	2023第1回安重根義士探還国際学術会議「安重根義士探還の経過と課題」	수하오, 손영홍, 김월배, 임성형
21	石川亮太	藻類学者岡村金太郎(1867~1935)の朝鮮調査について	2024年2月	朝鮮史研究会関西西部会2024年2月例会	
22	石川亮太	近代朝鮮をめぐる藻類学研究: 岡村金太郎(1867~1935)とその資料	2023年11月	日本植民地研究会2023年度秋季研究会	
23	中戸 祐夫	The Yoon-Kishida Summit: A Japanese Perspective	2023年4月	Center for Strategic and Cultural Studies Workshop, CSCS	
24	中戸 祐夫	U.S.-ROK-Japan Cooperation: A Japanese View	2023年11月	「朝鮮半島停戦70周年及び朝鮮半島情勢発展動向」、吉林大学	
25	中戸 祐夫	The Politics of Japan-Korea Trade Conflict: Were Japan's 'Economic Sanctions' Effective?	2023年12月	Annual Conference of Chinese Association of Korean Studies, 中国文化大学(台北)	
26	松本智也	1764年通信使と幕府儒官との交流—朱子学普及の動向を視野に	2023年10月	동아시아일본학회 추계국제학술대회, 仁川大学校(オンライン)	
27	松本智也	宝暦度通信使と幕府儒官との交流—朱子学普及の動向を視野に	2023年10月	広島史学研究会大会、広島大学	
28	尹健次	『抗路』刊行とその後、そしてこれからの在日論	2023年5月	シンポジウム「これからの「在日論」は可能か」、法政大学	高柳俊男、趙秀一、他
29	Etsuro Totsuka	Violence and Anti-Violence in Early Twentieth-Century China, Japan, and Korea On the Judgment of the Trial of Lieutenant General An Chungun of the Voluntary Corp	2023年6月	The 8th AAS-in-Asia Conference, 2023 AAS-in-Asia, June 24-27, 2-23, Daegu, Korea	
30	Etsuro Totsuka	Unlawfulness of Japan's Colonization of Korean Peninsula —Korea's Declaration of January 21, 1904 and Japan's Violation of International Law—	2023年12月	The Fifth Conference on the "Beyond the San Francisco System" December 15, 2023 The venue: Choi Jong-Hyun Hall, Korea University	
31	沈熙燦	디지털한국학의 시도: 근대한국학 자료를	2023年4月	延世大学グローバル創意融合研究教授 세미나(ソウル)	

		바탕으로(デジタル韓国学の試み——近代韓国学の史料を中心に)			
32	沈熙燦	천황의 존재론: 일시동인과 식민지조선(天皇の存在論——視同仁と植民地朝鮮)	2023年4月	第23次東アジア人文知識フォーラム(ソウル)	
33	沈熙燦	『조선지광』의 문예면(『朝鮮之光』の文芸欄)	2023年5月	延世大学近代韓国学研究所 第53回国内学術大会(韓国・原州)	
34	沈熙燦	이마니시 류 관련 자료 소개 및 독해(今西龍關係資料紹介および読解)	2023年5月	東アジア日本学会 2023年春季学術大会(ソウル)	
35	沈熙燦	식민주의 역사학 연구 서설(植民主義歴史学序説)	2023年6月	韓国日本思想史学会 学術研究会(ソウル)	
36	沈熙燦	카이로회담을 전후한 시기 한국 지식인들의 세계체제에 대한 인식(カイロ会談をめぐる韓国知識人たちの世界体制認識)	2023年8月	2023年白凡金九記念館・金九財団共同国際学術会議(ソウル)	
37	沈熙燦	植民地朝鮮から考える「天皇」の存在論	2023年11月	東アジア日本研究者協議会 第7回国際学術大会(東京)	
38	沈熙燦	식민지시기 조선일보 동아일보 메타 DB 분석을 통해 본 1930년대 조선학(植民地期における朝鮮日報・東亜日報のメタDB分析からみる1930年代の朝鮮学)	2023年12月	延世大学近代韓国学研究所 第17회코로キアム(韓国・原州)	
39	沈熙燦	로봇의 존재론: ‘공각기동대’를 보는 하이데거(ロボットの存在論——‘攻殻機動隊’をみるハイデッガー)	2023年12月	2023年度第49次韓国日本思想史学会学術大会(ソウル)	
40	沈熙燦	‘반일’을 사상화하기: 그 필연적 윤리에 대해(「反日」を思想化する——その必然的倫理について)	2023年12月	延世大学国学研究院シンポジウム(ソウル)	
41	沈熙燦	이시모다 쇼와 일본의 ‘전후역사학’: 역사학은 어떻게 투쟁하는가?(石母田正と日本の「戦後歴史学」——歴史学はどのように闘争するのか)	2023年12月	歴史教育研究会 2023年度冬季学術大会(ソウル)	
42	川瀬俊治	関東大震災から100年—現代の課題を考える—	2023年8月	天理市民会館	
43	川瀬俊治	水平社宣言の琉球語訳を披露する	2023年8月	大阪・PLP会館	
44	川瀬俊治	水平社宣言の琉球語訳を披露する	2023年12月	東京・文京区、教育会館	
45	徐潤雅	韓国民主化連帶運動と文化活動: 1981年関西における富山妙子巡回展を中心に	2023年9月	大阪コリアン研究プラットフォーム「コリアン・スタディ・キャンプ」、大阪公立大学	今井祥人、姜丙順、竹田馨
46	徐潤雅	大阪の日本女性画家の研究はいま!	2024年1月	大阪大学中之島センター	フェミニズム&アート研究プロジェクト研究会(代表:北原恵、中嶋泉)

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	2023年日韓ワークショップ	衣笠キャンパス	2023年7月	100名	東亜大学ジェンダーアフェクト研究所
2	日中韓3大学シンポジウム	吉林大学	2023年11月	10名	東國大学校北韓学研究所、吉林大学東北アジア研究院
3	第125回Ricks月例研究会	衣笠キャンパス	2023年4月		
4	第126回Ricks月例研究会	衣笠キャンパス	2023年5月		
5	第127回Ricks月例研究会	衣笠キャンパス	2023年11月		
6	第128回Ricks月例研究会	衣笠キャンパス	2024年1月		ANU-RU Visiting Reseacher' s Program
7	第129回Ricks月例研究会	衣笠キャンパス	2024年1月		
8	AJI 連続ウェビナー第1回目	衣笠キャンパス	2024年6月		立命館大学アジア・日本研究所
9	AJI 連続ウェビナー第2回目	衣笠キャンパス	2024年6月		立命館大学アジア・日本研究所
10	AJI 連続ウェビナー第3回目	衣笠キャンパス	2024年7月		立命館大学アジア・日本研究所
11	AJI 連続ウェビナー第4回目	衣笠キャンパス	2024年7月		立命館大学アジア・日本研究所
12	AJI 連続ウェビナー第5回目	衣笠キャンパス	2024年10月		立命館大学アジア・日本研究所

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	勝村誠	MOU 締結記念講演会「記憶と連帯の都市—京都ウトロ地区在日朝鮮人たちの居住権闘争—」	大邱大学	2023年10月
2	勝村 誠	新しい戦前を許さず—いま京都学連事件を問う	『療原』（京都の民主運動史を語る会 会報）	2023年11月15日
2	金丸裕一	教会史料の中にアジアを読む—戦前・戦時期の「交流史」を中心に—	キリスト教史学会西日本部会大会記念講演、関西学院大学	2024年3月2日
3	文京洙	<書評>張寅性『現代日本の保守主義：批判的保守主義の心理と論理』	『日本研究』68集、国際日本文化研究センター	2024年3月
4	文京洙	在日コリアン社会の歩みと課題—部落解放・人権入門 2024：第54回部落解放・人権夏期講座 報告書	『部落解放』解放出版社	2024年1月
5	文京洙	<書評>朴一著『在日という病』	しんぶん堂	2024年1月
6	文京洙	Two Turning Points for Postwar Zainichi Koreans - the 1970s and the Present (戦後在日コリアンの二つの転機)	SEOUL JOURNAL of KOREAN STUDIES. Vol. 36, No2	2023年12月
7	文京洙	<時論>한일 시민의 융합과 단절 (日韓市民の融合と断絶)	제주일보(济州日報)	2023年10月29日
8	文京洙	<時論>김석범·김시중 국제문학 포럼 (金石範・金時鐘国際フォーラム)	제주일보(济州日報)	2023年6月28日
9	金友子	大学内レイシャルハラスメントとマイクロアグレッション	日朝関係史講座、同志社大学（京都市）	2023年12月8日
10	金友子	マイクロアグレッションって何だろう？：無自覚な差別と排除を考える	JICA 中部なごや地球ひろば セミナールーム（愛知県名古屋）	2023年11月12日
11	金友子	在日外国人教育を進めるために：マイクロアグレッションについて考える	大阪府教育センター（大阪市）	2023年10月16日
12	金友子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	（大阪市職員人材開発センター（大阪市））	2023年9月21日
13	金友子	マイクロアグレッションを理解する	ふたば国際プラザ（神戸市）	2023年9月17日

14	金友子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	京都府立城陽高等学校（城陽市）	2023年8月30日
15	金友子	対談：映画「最も危険な年」上映会・対談会	大阪弁護士会館（大阪市）	2023年7月22日
16	金友子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	奈良市教育センター（奈良市）	2023年6月30日
17	金友子	マイクロアグレッション：日常生活に埋め込まれた無自覚の差別	大阪府立東住吉高等学校（大阪市）	2023年6月5日
18	尹健次	シンポジウム「これからの「在日論」は可能か」	法政大学、市ヶ谷校舎	2023年5月

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業（科研費）

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
2	鄭雅英	在外コリアン学生の1960年代ーグローバルヒストリーの観点から	基盤研究(C)	2020年	2023年	代表
3	金丸裕一	20世紀東アジア・キリスト教史における他者像形成の動態	基盤研究(C)	2022年	2024年	代表
4	張惠英	東アジアにおける特攻認識と戦争の記憶・断絶に関する国際比較研究	基盤研究(C)	2021年	2023年	分担
5	轟博志	朝鮮半島における院及び院集落の立地と分布に関する通時的研究	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
6	松坂裕晃	トランスパシフィック思想史・社会運動史の研究：「アフロ・アジア」の視点から	若手研究	2023年4月	2026年3月	代表
8	文京洙	冷戦と性暴力ー北東アジアの長期駐留軍とインターセクショナル・フェミニズム	基盤研究(C)	2022年4月	2026年3月	分担
9	金友子	離散民の祖国志向の歴史・社会的構築性に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2024年3月	代表
10	金友子	マイクロアグレッション概念の社会的含意に関する研究——在日朝鮮人を事例として	基盤研究(C)	2023年4月	2025年3月	代表
11	石川亮太	帝国史の視点から見た植民地朝鮮の水産・海洋知の形成：朝鮮総督府水産試験場を中心に	基盤研究(C)	2024年4月	2026年3月	代表
12	石川亮太	朝鮮海出漁資料からみた植民地社会の実態研究	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
13	石川亮太	19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究	基盤研究(A)	2022年4月	2027年3月	分担
14	石川亮太	中印比較史の創生 データベースに基づく総合的研究	基盤研究(A)	2021年4月	2025年3月	分担
15	松本智也	近世・近代転換期の日朝関係と寛政異学の禁	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
16	橋本妹里	植民地期李王家の神聖空間に対する同時代的認識の研究ー李王家陵園墓の検討を中心に	若手研究	2018年4月	2024年3月	代表
17	崔 正勲	北朝鮮の核軍拡に対応する核抑止論の刷新と北東アジアの安全保障：日韓の戦略と選択肢	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	勝村誠	海外独立運動史跡地調査点検	大韓民国独立記念館	2014年5月	2027年	代表
2	金丸裕一	20世紀東アジア・キリスト教における他者認識の研究	JFE21世紀財団アジア歴史研究助成	2022年1月	2024年1月	代表

